



創価大学

Discover your potential
自分力の発見

学修成果の可視化と 学生・教員による相互評価の促進

創価大学 教育・学習支援センター

望月 雅光



大学教育再生加速プログラム

創価大学について

創立: 1971年(昭和46年) **創立者:** 池田大作先生

建学の精神:

「人間教育の最高学府たれ」

「新しき大文化建設の揺籃たれ」

「人類の平和を守るフォートレス(要塞)たれ」



『創造的人間の育成』

所在地: 東京都八王子市

学生中心の大学、
学生参加の原則

学生が主体的に、様々な行事やイベントに関与してくれる原動力になっている。



全学生数(学部生、大学院生)	7,915名
学部学生数	7,502名
経済学部学生数	1,092名
経営学部学生数	1,075名
法学部学生数	1,191名
文学部学生数	1,849名
教育学部学生数	839名
工学部学生数	471名
理工学部学生数	393名
看護学部学生数	337名
国際教養学部学生数	255名
大学院(専門職大学院含む)学生数	413名

(開設当初の目的)

教員に対する授業改善の支援

学生に対する学習の支援

(学習の支援については総合学習支援センターに発展)

1998年 準備委員会発足

2000年 教育・学習活動支援センター開設

2002年 学生参画型授業(アクティブ・ラーニングの組織的導入)

2003年 特色GP採択 「学生中心の大学」のための教育・学習支援
—教育・学習活動支援センターの取組—

2007年 現代GP採択 学生が協調的に作問可能なWBTシステム
—ICTを活用した自律的学習の推進—

2008年 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム 連携校

2009年 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】【テーマB】 採択

2009年 大学教育充実のための

戦略的大学連携支援プログラム(総合的連携型)連携校

2012年 大学間連携共同教育推進事業 連携校として採択

2014年 大学教育再生加速プログラム 採択

※ 補助金申請は、教職共同のチームで実施

主 幹：FD委員会

（委員長：学士課程機構長、構成員：学部長等）

運営主体：学士課程教育機構と教育・学習支援センター（CETL）

- 創価大学FDフォーラム（年1回）（学外に公開）
- 学士課程教育機構セミナー（年6回程度）（学外に公開）
- CETL勉強会（随時）（学内向け）

※これらの資料は、必要に応じにて、学内に共有

（例えば、教授会資料として配布し、概要を教授会で説明）

2013年度以降、学習成果の可視化に取り組んでいる。
共通科目を中心に、ラーニングアウトカムズの測定を実施

AP事業での取組の概要



AP事業(テーマI/II複合型)の取組

建学の精神に基づく、創造的人間の育成

良質なAL科目
30% → 60%

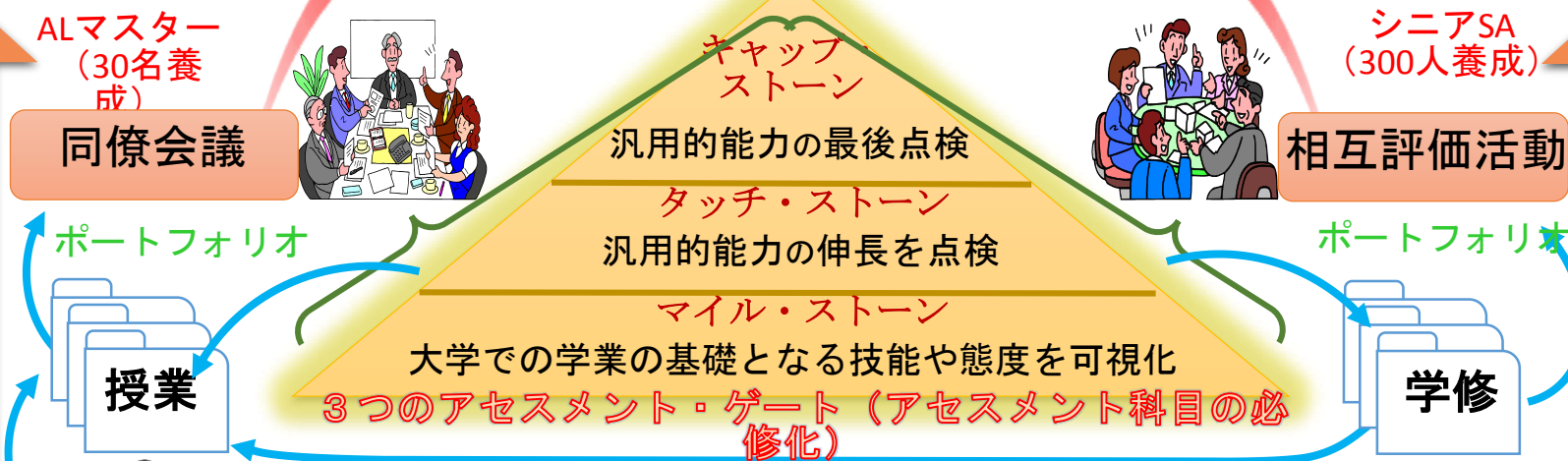
相互評価文化の醸成

学修成果達成度
調査実施率：100%

ALの質的向上

学修成果の可視化

※可視化した学修成果の蓄積



学生ボランティア
授業改善用の
情報収集

- AL手法**
- ・ LTD, PBL, TBL
 - ・ プロジェクトアドベチャー
 - ・ 協同学習 など

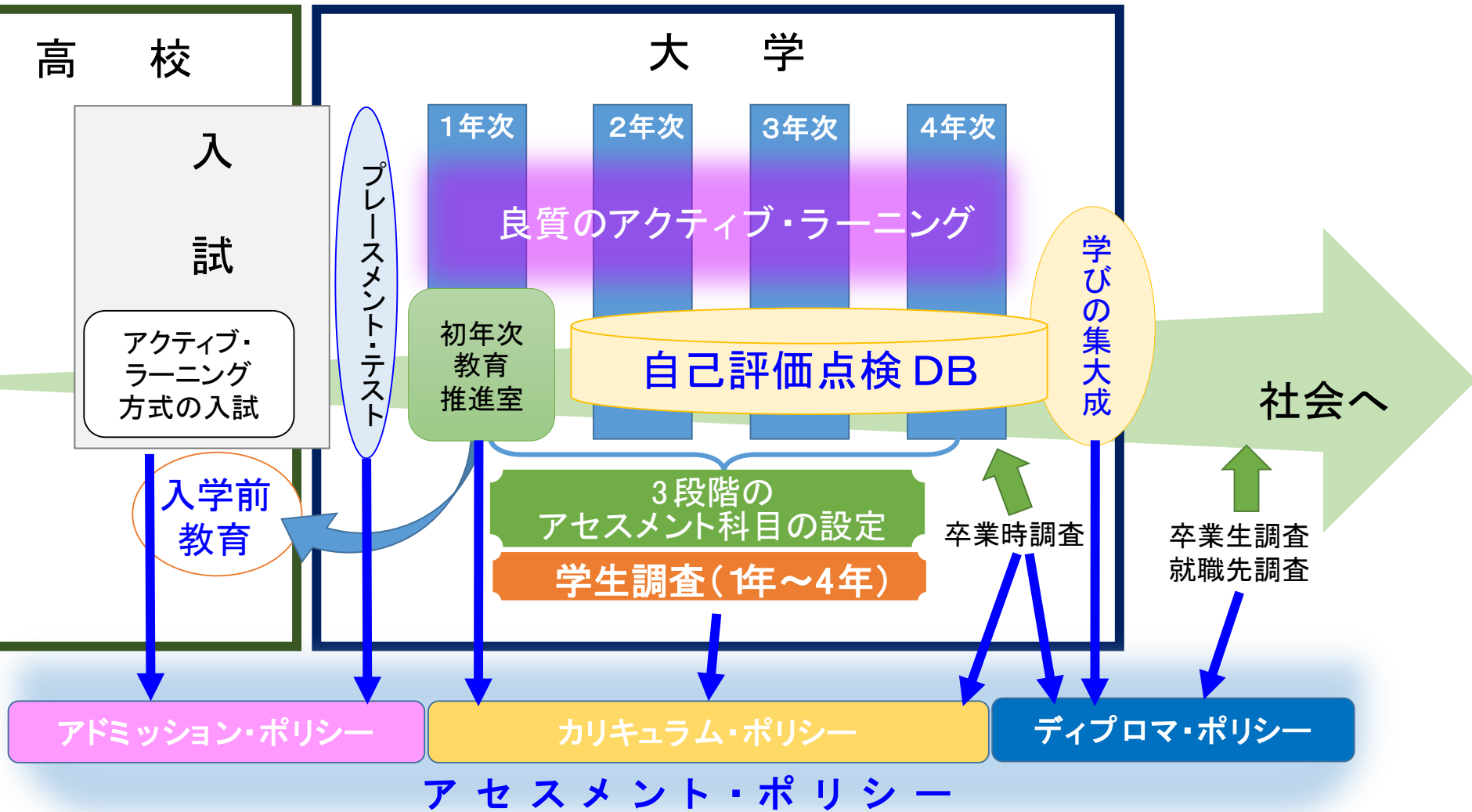
開発

学外で評価された先輩や卒業生を調査し、汎用的能力レベルを測定するルーブリック
アセスメント科目用のワークシート など

活躍する
先輩を目標

FDの再構築：多層的な研修体制の構築 (全教員が研修に参加)

問題意識：学習目標を意識し、その達成に自らの学びを律していく、真に能動的な学習ができていない
改革の成果：強固な教学マネジメント体制、アクティブ・ラーニング (AL) の全学的な導入



自己評価点検
データベース
の活用

学びの集大成

自らの学びを総括し、仲間とともに互いの成長を承認し合うイベント

任意なイベント
(シェアタイム)

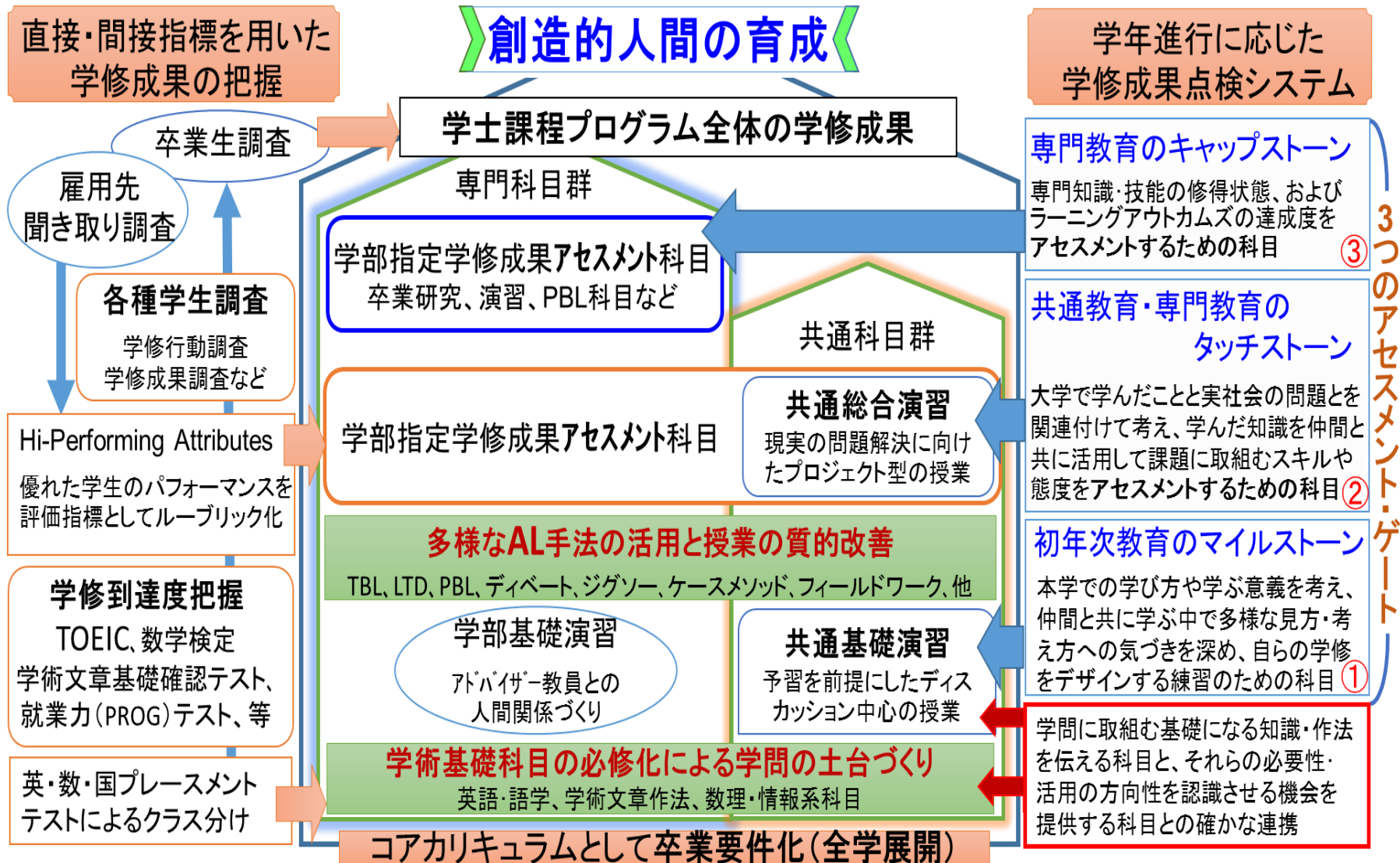
自らの学びを総括し、後輩に成長の学習成果をアピールするイベント

オープンキャンパス
(先輩アピール)

ハイパフォーマーの振り返りを奨励し、モデルとなるショーケースの学内公開

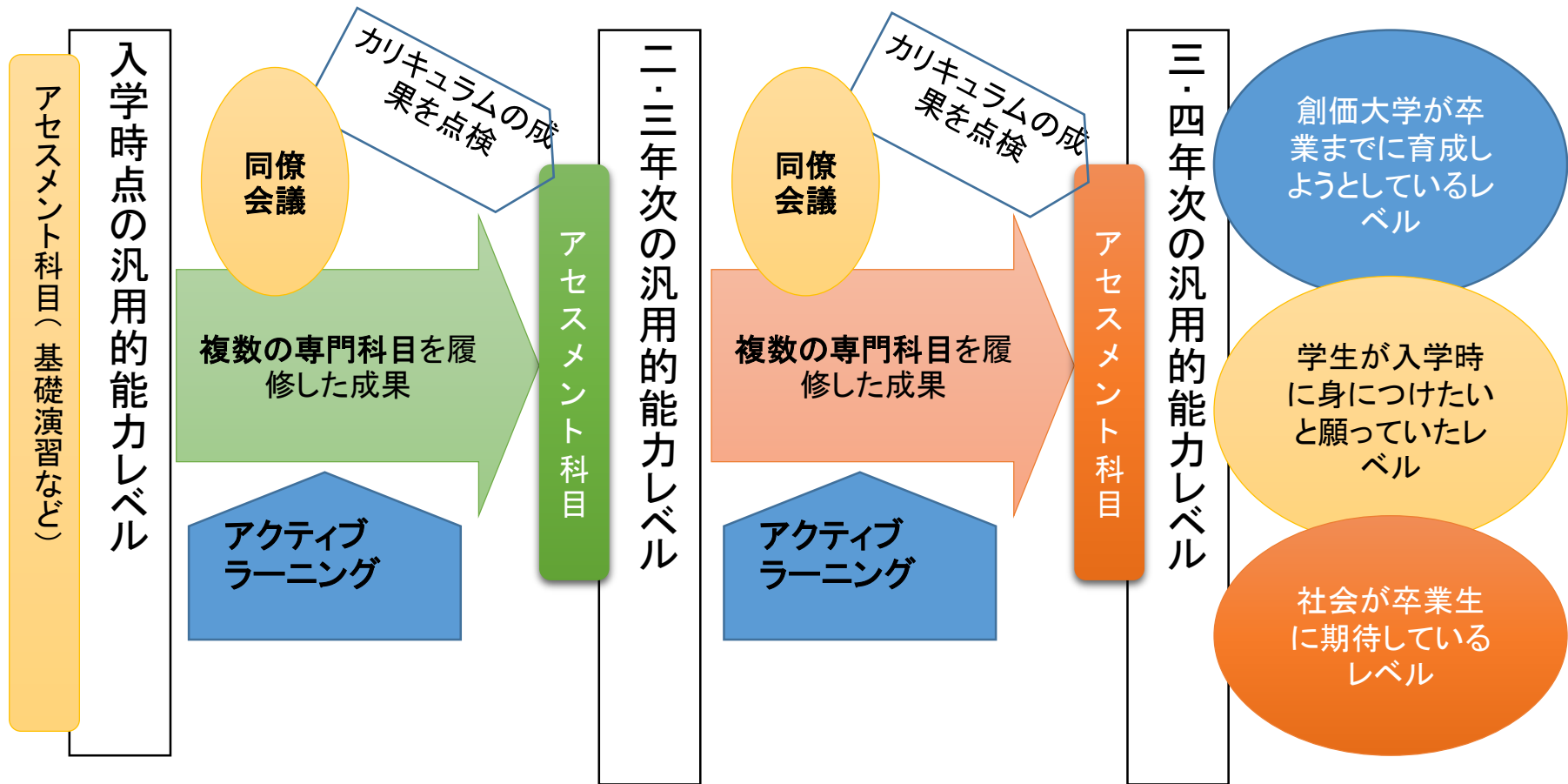
成績優秀者
(卒業時)

アセスメントの仕組みについて



- 各科目の中で実施されるアクティブラーニングを通じて、どのような能力が、どの程度身についてきているのかを点検させる科目
- アセスメント科目で課される課題や学習活動は、後述の**ルーブリック**に対応したものを用意**(後ろ向き設計)**
- 学習ポートフォリオを使った振り返り(学生同士の相互評価)を学生が実施。
- 学生の振り返りや各種データに基づき、アセスメント科目担当者は同僚の先生方と一緒に、授業改善に向けた話し合い(質問会議)。
- 入学から卒業に向けて、最低3科目設定し、学生は卒業までに 3回、自己点検**(卒業要件化を行う予定)**

アセスメント科目を介した カリキュラムに責任を持つ教員集団づくり



学期はじめ

- 学びはじめシート
- 自己評価ルーブリック

学期途中

- 中間振り返りシート

学期終わり

- リフレクションシート
- 自己評価ルーブリック
- 自己成長記録シート
(相互評価を通じて気づいたことなど)

学びはじめシート

※用紙を曲げたり汚したりしないでください。

学籍番号								氏名		作成日	
										月	日
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			①	②
①	①	①	①	①	①	①	①			①	①
②	②	②	②	②	②	②	②	学部学科		②	②
③	③	③	③	③	③	③	③	学部		③	③
④	④	④	④	④	④	④	④	学科		④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	科目名		⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥			⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦			⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧			⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨			⑨	⑨

① 授業の到達目標(シラバスに表記されたもの(あるいは要約したもの)を記載)

② 授業を履修する理由(動機)

③ 自分なりの目標

④ その目標に向けて取り組みたいこと(挑戦したいこと)

⑤ そのためのリソースや留意事項

- 学生が学期のはじめと終りに、自らの成長変化を点検する際の指標がルーブリック。
- どんな指標を使って自己評価させるか、AP推進本部では全学共通の指標を用意。
- 学部の判断で新たに項目を追加できる。

1年生前期の自己評価ルーブリックの例

高校までの自分を振り返って

<p>学習者としての自覚</p> <p>大学の授業で出される課題は、担当する先生の様々な考えが反映されます。出題の意図や評価の基準をしっかりと理解することが大切です。自分勝手な思い込みで判断・行動しても良い結果はでないでしょう。丁寧に課題に取り組む姿勢が大切です。</p>	<p>今までも、課題の意図や指示を確かめながら学んできました。大学生になっても更に丁寧に課題に取り組みます。</p>	<p>課題は丁寧に取り組んで来たと思いますが、少し不安です。よりいっそう気をつけて取り組みたいと思います。</p>	<p>課題は先生の言われた通りにやってきたつもりですが、自分では確かめたことはありません。丁寧に取り組めるかどうか心配です。</p>	<p>今まで、課題の意図を考えて取り組んだことは、ありませんでした。これから、あまり考えないと思います。</p>
---	--	---	--	--

この授業での自分を振り返って

<p>学習者としての自覚</p> <p>授業で出される課題は、出題の意図や評価の基準をしっかりと理解することが大切です。自分勝手な思い込みで判断・行動しても良い結果はでないでしょう。丁寧に課題に取り組む姿勢が大切です。</p>	<p>提出物が課題の要求に応じているかどうか確かめるために、シラバスを読んだり、先生に尋ねたりしました。レポートは何度も推敲し、返却物を見直し直すべきところは直してから保管しました。</p>	<p>提出物が出題者（先生）の意図に合っているかどうか、意識したつもりです。また、レポートは提出前にならず推敲し、返却物を見直すように心がけました。授業での配布物や返却物はファイルに保管しました。</p>	<p>出題者の意図を考えて課題に取り組むことは、ほとんどありませんでした。ただし、難しい課題のときは、友人に相談しました。レポートなどは提出前に読み直すこともありましたが、返却物はそのまま保管しただけです。</p>	<p>出題者の意図を考えたことはありませんでした。レポートは推敲せず、できあがり次第すぐに提出しました。配布物や返却物を保管するのを忘れることもありました。</p>
--	---	--	---	--

2/3年生用の自己評価ルーブリックの例

以下の四つの項目をしっかりと読んでください。どれも、自立的学習者である大学生に必要な姿勢や能力に関することです。この授業を通じて、そうした姿勢や能力がどの程度身についているのか、自己評価してみてください。そして、項目ごとに、あなたの現状に近いレベルに○をつけてください。

<p>計画遂行力</p> <p>入学から今までの学びを基に、いよいよ専門性の高い授業が増えていきます。キチンと成果がでる学習を行うために、効率的な学習計画や時間管理は必須です。</p>	<p>私は、授業の進行に応じてシラバスは必ず確認し、計画的に予習して授業には臨むようにしている。</p> <p>加えて、シラバスにある到達目標を参考に、自分なりの学習目標を立てて取り組むようにしている。</p>	<p>履修時はもちろん、授業の進行に応じてシラバスを確認し、授業内容について見通しを持って臨むようにしてきた。</p> <p>取り立てて自分の目標を設定して臨むことはなかったが、課題や宿題の提出予定を踏まえて余裕をもって準備できたと思っている。</p>	<p>授業で学ぶ内容について見通しをもって臨むことの大切さは感じるが、なかなか実際には取り組めていない。</p> <p>(あるいは、シラバスを事前に読むなど、計画性をもって物事に取り組むのは苦手なのかもしれない)。</p>	<p>今まで、宿題や課題は期日が迫ってから取り組んできたし、それで何とかこなしている。シラバスを事前にチェックして勉強計画を立てたりはしないだろう。</p>
---	---	--	---	--

<p>計画遂行力</p> <p>学年が進むにつれ、いよいよ専門性の高い授業が増えていきます。キチンと成果がでる学習を行うために、効率的な学習計画や時間管理は必須です。</p>	<p>この授業では、授業の進行に応じて、シラバスは必ず確認し、計画的に予習してきた。特に、シラバスにある到達目標を参考に、自分なりの学習目標を立てて取り組んだ。</p> <p>前もって見通しを立てて取り組む、という姿勢は十分に身についていると思う。</p>	<p>履修時はもちろん、授業の進行に応じてシラバスを確認し、授業内容について見通しを持って臨むようにしてきた。</p> <p>取り立てて自分の目標を設定して臨むことはなかったが、課題や宿題の提出予定を踏まえて計画的に準備できたと思っている。</p>	<p>この授業を通じて、授業で学ぶ内容について見通しをもって臨むことの大切さは感じたが、なかなか実際には取り組めなかった。</p> <p>(あるいは、シラバスを事前に読むなど、計画性をもって物事に取り組むのは苦手なのかもしれない)。</p>	<p>この授業でも、宿題や課題は期日が迫ってから取り組んで、それで何とかありました。これからもシラバスを事前にチェックして勉強計画を立てることはないだろう。</p> <p>私には、前もって見通しを立てて取り組む、という姿勢が身につけていないと思う。</p>
--	--	--	--	--

3/4年生用の自己評価ルーブリックの例

以下の5項目について、今までの学業への取り組みを振り返り、自身のレベルに最も近いと思うものを選びましょう。どれも、創価大学が育成を目指す「創造的人間」にとって大切な資質や態度です。

	4	3	2	1
問題発見／課題設定 大学で学ぶ様々な知識に照らし、あるいはそうした知識や経験をつないで、直面する問題の本質を捉え、その解決に向けて課題設定していく姿勢は、学年が上がるとともに求められます。卒業研究やリサーチペーパーは、そうした力を磨く良い機会でしょう。実際、現実社会と向き合い、そこにどのような課題を見出し、対応可能な課題として設定するか、そうした能力は創造的な人間に育つ上で、大いに磨いていきたいものです。	(今までの学業への取り組みを振り返ると)私は世界の動きや現実社会の問題に気を配ってきたと思います。社会と向きあい、学んだことをつかって、様々な社会問題を考えってきました。学ぶことで、新たな気づきや理解が深まっていると思います。そして、もっと学んで、より深く現実社会を考えていきたい、学んだことを社会のために役立てたい、そんな気持ちが強くなってきた気がします。		(今までの学業への取り組みを振り返ると)複雑で答えのないように見える課題でも、しっかり向き合う努力はしてきたと思います。ただ、問題の本質を探り、解決に向けて取り組むことはなかなか難しいことでした。 まだまだ学び足りないことが多く、自分が学んでいることと、向かい合う問題との繋がりが見つけられないこともありました。	(今までの学業への取り組みを振り返ると)与えられた課題をこなすのが精一杯だったかもしれません。実際、授業で扱う問題の本質を探り、解決に向けて取り組むことは難しいことでした。 今まで学んできたことを自分で関連づけて考えるのは苦手です。それでも、何をすべきか、どう考えるべきか、指示してもらえば何とか対応できるようになってきたと思います。
	私は、この授業で学んだことをつかって、様々な社会問題を考えってみました。学ぶことで、新たな気づきや理解が深まったと実感しています。そして、もっと学んで、より深く現実社会を考えていきたい、学んだことを社会のために役立てたい、そんな気持ちが強くなりました。		(この授業を通じて)複雑に見える課題でも、しっかり取り組む努力はしました。ただ、まだまだ学び足りないことが多く、自分が学んでいることが、どのように生きるのか、向かい合う問題との繋がりをを見つけることが十分にできませんでした。	(この授業では)与えられた課題をこなすのが精一杯でした。実際、今まで学んできたことを自分で関連づけて考えるのは難しすぎます。何をすべきか、どう考えるべきか、指示してもらえば何とか対応できるかもしれません。

マイルストーン学期はじめ(共通)

学号番号										記入日		1年生前期用		
										月	日	学部学科		科目
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	①	②	学部	学科	
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	①	②	氏名		担当教員
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	①	②			
㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	①	②			
㊶	㊷	㊸	㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	①	②			

以下の項目について、それぞれの説明をよく読み、**今(高校)までを振り返りながら、今の自身のレベルに最も近いと思うもの**を選びましょう。

※各項目をしっかり読んでください。どれも、自立的学習者である大学生に必要な姿勢や能力に関することです。

①学びの計画性

大学での学習は量・質ともに高校時代に比べて倍増します。そして大学生活は、高校の時より様々に忙しくなります。そこで、計画的に勉強する習慣を身につけることはとても重要です。

⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
十分、身につけていると思います。	たぶん大丈夫だと思います。	あまり自信がありません。	まったく身につけていない気がします。	自分のことですが、よく分かりません。あるいは、判断がつきません。		

②大学生としての自覚

高校までは「生徒」と呼ばれますが、大学では「学生」です。学生は自分の学びに責任を持たなければなりません。授業で学んだことを使って自分で考え、自分の言葉でそれを伝え、伝えたことやその結果に責任を持つことが期待されます。

⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
創価大学の「学生」になる、という自覚を持って入学してきました。	呼び名が「生徒」から「学生」に変わることは知っていましたが、その意味の違いについては、少し考えたこともありません。	呼び名が「生徒」から「学生」に変わることは知っていましたが、その意味の違いについては、少し考えたこともありません。	呼び名が「生徒」から「学生」に変わることも知りませんでしたし、その意味の違いも考えたことはありません。	自分のことですが、よく分かりません。あるいは、判断がつきません。		

③学習者としての自覚

大学の授業で出される課題は、担当する教員の様々な考えが反映されます。出題の意図や評価の基準をしっかり理解することが大切です。自分勝手に思い込みで判断・行動しても良い結果はでないでしょう。丁寧に課題に取り組む姿勢が大切です。

⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
今までも、課題の意図や指示を確かめながら学んできました。大学生になっても更に丁寧に課題に取り組めます。	課題は丁寧に取り組みたいと思いますが、少し不安です。もう少しそう気をつけて取り組みたいと思います。	課題は教員の言われた通りにやってきましたが、自分で確かめたことはありません。丁寧に取り組みたいと思います。	今までも、課題の意図や指示を確かめながら学んできました。大学生になっても更に丁寧に課題に取り組めます。	自分のことですが、よく分かりません。あるいは、判断がつきません。		

④新しい仲間作り

大学生活を充実させ、勉強面でも互いに刺激し合える友人を持つことは大切です。そのためには、自ら進んで周囲に働きかけ、新しい友人をつくることも必要でしょう。

⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
今までも、友人はたくさんいました。中には勉強面で励まし合える友達もいます。これからはもう少し友人を作っていきます。	今まで友人はいましたが、勉強面で励まし合える友人を特に意識したことはありません。これからは勉強面で励まし合える友人を作りたいと思います。	今まで友達が多い方ではありませんでした。これからは、勉強面で励まし合える友人を作りたいと思います。	今まで友達が多い方ではありませんでした。これからは、あまり友達を作っていく自信がありません。	自分のことですが、よく分かりません。あるいは、判断がつきません。		

※裏面に各学部、学科、科目で独自の項目が追加されている場合があります。裏面も確認しましょう。(ないこともあります。)

マイルストーン学期はじめ(経営)

⑤メタ認知/自己調整力

目標達成に向けて、粘り強く取り組むことは、大学生活においても、その後の人生においても重要です。そのためには自分の状況を正しく認識し、次に何をすべきかを判断する必要があります。状況を客観的・多面的に捉え、より良い解決策を考える力は社会で活躍するうえで重要でしょう。

⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
高校でも学期の進行に合わせて、自分の取組みを振り返り、目標に到達しつつあることを確かめながら授業に参加してきました。行き詰まりそうになったら、立ち止まって改善策を考え、全体を俯瞰して判断するように心がけています。また、冷静に、あるいは客観的に取組みを振り返り、自主的に軌道修正を試みてきました。	日頃から自分の取組みを振り返ったり、点検したりはしますが、失敗や行き詰まりを感じた時は立ち止まって善後策を考えたようにしてきました。そのような時は、うまくいかない原因を論理的あるいは分析的に考えるように心がけてきました。そして自主的に、あるいは柔軟に軌道修正を試みてきました。	日頃から自分の取組みを振り返ったり、点検したりはしません。うまくいかない時は、とにかく一生懸命に取り組みことが大事だと思います。成功するまで、一度決めたやり方で何度も繰り返してみても構いません。誰かに注意されるまで、指示されるまでは、自主的な軌道修正はしてきませんでした。	今までの私は、目の前の課題に追われて学期を終えていました。自分の取組みを振り返る必要もあまり感じていません。うまく行かない時は、誰かが窮乏したり、足を引っ張ったりすることが多いです。自分としては、特に問題なくやっていると感じていても、思ったより評価が低いことが多かったと思います。	自分のことですが、よく分かりません。あるいは、判断がつきません。		

⑥経営学を学ぶ意義

自分の人生設計の上で創価大学経営学部での学修を位置づけ、学生生活の原動力にできる。

⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
私は、卒業後の計画も具体的に設計ができていて、その実現のために経営学部で学ぶという自覚があります。	具体的ではありませんが将来の夢として持っているものがあります。その夢の実現のためには経営学部での学修が役に立つと感じています。	卒業後の計画はまだ出来ませんが、経営学部の学修は社会人として必要なのと考えています。	特に経営学部での学修に具体的に求めるものはありません。興味を持って臨むように努力しています。	自分のことですが、よく分かりません。あるいは、判断がつきません。		

- すべてのワークシートを、学籍番号を読み取れるようにマークシート化している。
- ワークシートはあえて、電子化しない
- 学生の自己評価やアセスメントに活用

経営学部の例

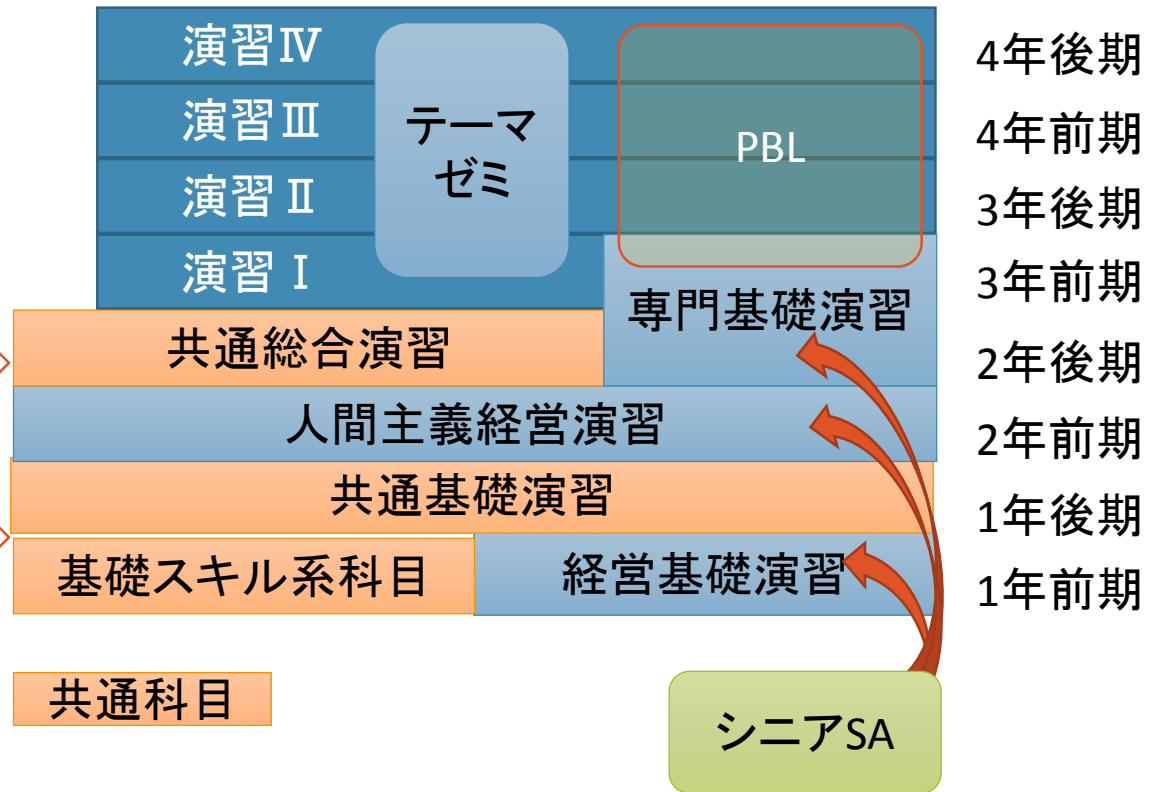


学部教育を通じて達成が期待される
学修成果(アウトカムズ)指標

能動的な学修への
参加を通じて育成が
期待される能力
⇒アセスメント指標

学んだことを活かす力・
仲間と挑戦的課題をやり抜く経験

考える力・コミュニケーション力
学ぶ構え・規範意識



学部専門科目では対応できない部分は、
共通科目で補い、4年間を通したゼミでの
学びを提供

相互評価の文化の醸成

- 学生は、自己評価ルーブリックを使って自身の汎用的能力の伸長を点検する。
- 学生は、点検結果を共有し、互いの取り組みを認め、さらなる成長を励ます。

相互評価活動

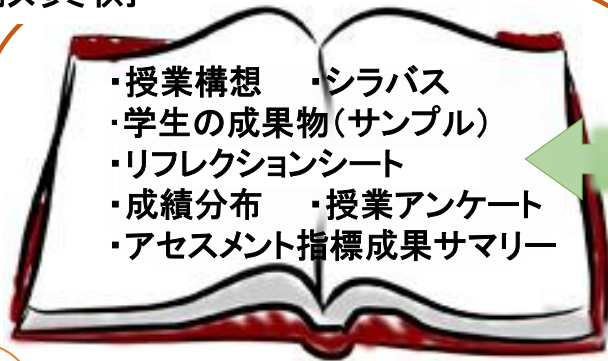
励ましの（成長志向の）
相互評価文化の醸成

創造的
人間

同僚会議

- 教員は、学生の振り返りに基づき、カリキュラムの効果を点検する。
- 教員は、点検結果を共有し、チームとして改善計画を策定・遂行する。

教員側



- ・授業構想
- ・シラバス
- ・学生の成果物(サンプル)
- ・リフレクションシート
- ・成績分布
- ・授業アンケート
- ・アセスメント指標成果サマリー

授業ポートフォリオ

同僚

同僚会議

学生の更なる成長のために
自分たちには何ができるか、
話し合う

同僚

同僚

同僚

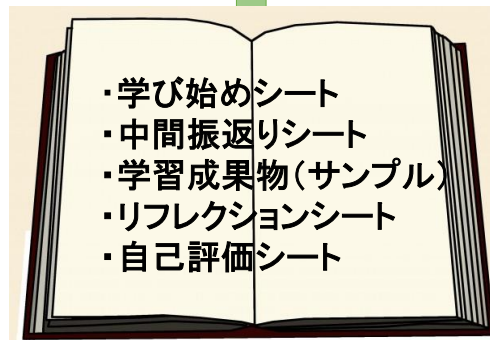
アセスメント
科目担当者

ALマスター
教員

AP推進
チーム

アセスメント科目

PASS(学生による情報収集)



学修ポートフォリオ

グループ内での相互評価

自己成長記録シート

自己成長記録
データベース

シニアSA

学生側



自己点検時の任意な参照

科目担当者の授業ポートフォリオに基づいた振り返りと、それを踏まえたメンバー全員でのカリキュラム検討の場

会議の方法：質問会議の形式

会議のメンバー構成 : 質問会議を実施するALコーチ(ファシリテータ)
問題提示者
学部の教員、
他学部の教員

授業ポートフォリオの内容例

- ① 授業者のステートメント(授業観と教育目標)
- ② 目標達成に向けた工夫(シラバス、課題、テスト、他)
- ③ 成果(成績分布、典型答案、リフレクションシート、他)
- ④ 省察(課題と学び、新たな気づき・意識変容)

- ALコーチ(ファシリテータ)が会議を管理
- 質問するか、それに答えることしかできない。
- 会議の途中に、振り返りの時間を持つ(学習の機会)
- 問題解決と個人の能力開発、組織開発が同時にできる

教員研修とSA研修

SOKA

UNIVERSITY

1泊2日集中型の教員研修(専任教員全員が対象)

授業設計の基本を学び、アクティブラーニングを取り入れた
コースシラバスを作る



個々の授業改善

研修の最後、グループごとに互いにシラバスを発表・検討しあう



授業方法に関して、**科目間のつながり**が意識され、
カリキュラムとしての成果の共有が進む

フォローアップ研修

シラバスに基づいた授業の成果を、次の学期はじめに**同僚と**振り返る

SPACEのボランティア活動、学習スキルセミナーを組み入れた経営学部SA研修プログラム

1年前期：SPACEボランティアの参加申込

夏休み：活動に参加するための研修の実施

1年後期：SPACEボランティアの活動に参加 (3回参加)

1年後期：指定された学習スキルセミナーへの参加

春休み：SA候補者研修

2年前期：経営基礎演習のSAとして活動

スタディーリーダー
研修 修了書

学部認定SA

SAの質保証、ピアサポートの充実

Discover your potential

自分力の発見